

令和6年度 第2回 向日市社会教育委員の会議	
日 時	令和6年7月30日（火）午後1時30分～同3時
場 所	永守重信市民会館第4会議室
出席委員	植田委員、河村委員、定金委員、高畑委員、田賀委員 中西委員、中本委員、横田委員、淀野委員、吉岡委員
欠席委員	池田委員、田邊委員
事 務 局	水上教育部長、長谷川教育部副部長兼生涯学習課長、芦田担当課長
内 容	1 議題 市民のスポーツに対する意識調査について 2 報告 令和6年度乙訓社会教育委員等連絡協議会総会・研修会について 3 報告 令和6年度京都府社会教育委員連絡協議会総会について 4 報告 令和6年度京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会について 5 報告 人権研修会Ⅰについて
委 員	【開会】 ○教育部長あいさつ ○委員長あいさつ ○議題1 市民のスポーツに対する意識調査について ー「向日市スポーツ推進計画」中間期における現状調査ー 問1の回答者の性別を尋ねるところで、今回から男・女に加え、「回答しない」を設けたとのことだが、そもそも尋ねることが不要なのではないか。
担当課長	前回の調査で同様に質問しており、男性190人、女性253人から回答を得ている。男女それぞれの視点でどの程度、回答が変わるかということも今後の参考になると考えている。
教育部副部長	前回の調査集計では、男女、年齢に応じたクロス集計で結果を見ており、属性による習慣や個性など傾向を見ることができているため、必要だと考えている。
委 員	普段自分も近所を散歩し運動を心がけているが、同じように歩いているのは女性のグループが多い。男性は単独が多い。また女性の方が話しかけた時、あいさつに加え会話もするが、男性はあいさつにとどまることが多い。そこに性差があると感じるし、性差による違いといったことを意識して調査を分析するためには必要だと思う。

委 員	問7は「この1年間に行った運動やスポーツ」について尋ねているが、その中で「キャンプ」はスポーツに当てはまるのか。
担当課長	アンケートを策定したときに参考としたのが、京都府や国のアンケートであり、その中で「キャンプ」をスポーツとされているため、向日市でも同様にした。
委 員	回答者は無作為で選ぶということだが、障がいのない方・障がいのある方のどちらも含まれる。問19は「障がいのある人が、スポーツができるようにするためにはどのような手立てが必要か」と質問しており、この問自体は、障がいのある人に直接聞いた方が、より障がいのある方が何を望んでいるのかわかるのではないか。無作為だと障がいのある方も回答するが、大半は障がいのない方の回答になるのではないか。問19についてより正確につかもうとするならば、この調査とは別に福祉施設入所者などに改めて調査してはいかがか。そうした方が、障がいのある方のスポーツ施策に活かすことができる。
担当課長	障がいのある人にも気軽にスポーツができる環境を整えるために、また、障がいのない方の理解をすすめるためにこの調査項目を設けている。こういったところに配慮すれば障がいがある人と一緒にスポーツできるのか、考えるきっかけとしていただきたい、そういった意識の調査も含めて行っている。
委 員	アンケート項目に問19は残した上で、スポーツ施策において障がいのある方のスポーツ環境を整えんとするならば、改めて調査するのがよいと思う。
教育部副部長	市では、障がいのある方に対してこういったアンケートを取る機会を別に設けている。「障がい者計画」を策定する前に、毎回市民の意識調査を行っており、支援サービスの現状調査に加え、健康やスポーツに関する項目を追加するなど、関係課と調整しながら今後とも調査していきたい。
委 員	東京オリンピックを契機として、障がい者スポーツの一つだった、「ボッチャ」などは障がいのない方と障がいのある方が一緒に競技できるということで、今広まりつつある。障がいがある人もない人もスポーツを楽しむことができるように市民の意識を高めていくことが大切だと思う。
委 員	今回の調査は、紙だけの回答方法なのか。インターネットからは回答できるようにしないのか。
担当課長	アンケート調査の依頼は、対象者に対し郵送する予定であるが、インターネットを利用した回答方法が可能かどうか、現在検討を重ねているところである。
委 員	前回調査結果で回答した年代をみると、半分以上が60代以上である。無作為抽出で回答者を選ぶということだが、全くの無作為なのか、そもそも年代をバランス良く選んだ上で行ったのか分からないが、20代～40代の子育て世代が若干少ない。紙での回答方法が、これらの世代の生活様式に合致していない可能性がある。

	より広い世代から回答を得ようとするインターネットを用いた回答方法を導入するなど工夫した方がよいと思うが、具体的に工夫していることがあれば教えてほしい。
教育部副部長	無作為抽出の方法だが、年代別にわけての無作為抽出が可能なので、年代構成を平たくし、調査対象を設定することも検討したい。しかし現実には回答者をみていると上の世代が多いということで、ご意見いただいたとおり、スマホなどを活用したインターネットによる回答方法も検討していきたい。
委 員	問7で「この1年間に行った運動やスポーツ」という設問に「職業として行ったものは除く」としているが、問8以降の「頻度・時間・場所」を問う設問には、その記述がない。問8以降は「職業として行ったもの」も加えるという認識でいいのか。
担当課長	問8、問9、問10は問7から続く設問なので、「職業として行ったものは含まない」ことを意図しているが、あえて「職業として行ったものは除く」とはしていない。
委 員	書き方の工夫が必要だと思う。「職業として行ったものは除く」というのが、共通のことなら、それが明確に分かるように問7から問10に記述し、意図が正確に伝わるようにしなければ、アンケート結果にも影響を及ぼす。 加えて、問10の場所と問う質問の回答選択肢には、「7 自宅周辺や近所の公園」はあるが、「自宅」はない。前回のこの調査で「その他」と答えた人が多いが、「自宅」と答えた人はこのうち何人いたのか。回答があったのであれば加えた方がよい。コロナ禍にネット動画を見ながら自宅でヨガなどの運動をした人も多いのではないのか。回答の選択肢は作らないのか。
担当課長	「自宅」を加えた方がよいと思われる。前回調査の「その他」で「自宅」と回答した人数の記録が残っているか探して、項目に加えたと思う。
委 員	問13「クラブ・サークルへの加入の有無」を問う設問だが、問12「運動やスポーツをしなかった人にその理由を問う」に続く設問であるならば、「スポーツをしない」と回答した人に「加入」について尋ねることになるがいかが。また問15の選択肢「6. 興味がない」は「クラブ・サークル」に興味がないのか、「スポーツ」に興味がないのか、どちらになるのかわかりにくい。「スポーツ」をしている人に「クラブ・サークルへの加入の有無」について尋ねるのが自然ではないか。
教育部副部長	ご指摘のとおり、再度アンケートの設計自体を確認したいと思う。ただ気になるのが、前回との経年変化を捉えたいので、設計を大きく変えると数値も変わってくるだろう。計画の10年の間は明らかに間違っているところは直し、そのほかの部分については次期計画の際に変更を加えていくことも検討したい。
委 員	問16の「スポーツ観戦」について問う設問だが、「自転車競技」について前回か

	ら詳しく聞いている。何か意図はあるのか。また、「子どもの部活動を含む」とあるが、「体操競技」に力をいれている中学校もある。ぜひ加えていただきたい。そもそもなぜ「体操競技」が入っていないのか不思議だ。
担当課長	向日市に競輪場があり、自転車競技に縁があるということ、前回の結果では回答が少なからずあることから、前回と比較するために、今回も調査することとした。
教育部長	「体操競技」については、加えることとする。向日市民体育館は府内で唯一体操競技が行われる施設で、府の大会や全国大会も毎年のように開催されている。それらを見に行く市民もいると思われる。
委 員	先ほど、障がいのある方への設問について議論されたが、アンケート冒頭で回答者の属性として「障がいの有無」を尋ねることで、その後の回答内容を参考にできるのではないかな。
教育部副部長	ご提案のとおり設問を加えることで、障がいのある方の現状や傾向をこの調査の中でつかむことができると思われる。しかしながら、実際に設問を入れるとなると何を持って障がいとするか、障がいの程度は人それぞれであり、十分な検討が必要となってくる。
委 員	障がいのある子を教えていたことがあるが、どんな重い障がいがあっても、スポーツをやりたい、みんなと一緒に楽しみたいという気持ちは誰もが持っていた。その一人一人の思いを大切に、工夫を重ねて、スポーツを楽しめる機会を作っていくことを市としても取り組んでいただきたい。 ○報告 1 ～報告 5 ー参加した感想・意見の交流ー ○その他事項 令和 6 年度近畿地区社会教育研究大会（京都大会）について 【閉 会】